はじめに

１年というのは、本当に早いもので、気が付けばどんどんと雪解けが進み、山菜や木々の芽吹きが始まっている。

改めて１年間を振り返ってみると、春祭りへ参加させていただいたことに始まり、本当に様々な場面で、利賀地域との関わりが密になってきた１年間だったと思う。春祭りへの参加は、留学生にとって、祭りに込める情熱・春を迎える喜び・人と人との繋がりなど、たくさんの気づきを与えてくれた体験だったと感じた。

また、多くの利賀小中学校の児童・生徒が留学センターでの活動に参加をしてくれた。特に、土砂降りの雨の中でやらざるを得なかった稲刈りの活動では、悪天候にもかかわらず最後まで作業に参加をしてくれた。そうした姿に感動を覚えたのもつい最近のことのように思える。

このような地域の伝統行事への参加や、地元小中学生との密な関わりを通して、山村留学生たちの中に、利賀を「もうひとつの故郷」と思う心が醸成されることであろうと、確信している。

今年度も、利賀地域の皆様のご理解、ご支援を賜りながら、留学生たちを育てていただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

邑上　貴厚

【 活動カレンダー 】

２月

２３日　個人体験活動
２５日　スポーツ少年団（スキー）、雪遊び
２６日　アルペンスキー
２７日　ホームステイ入り

３月

９日　センター入り
１１日　個人体験活動、雪中キャンプ（～１２日）
１８日　大掃除
１９日　誕生日会
２１日　修園のつどい準備
２５日　修園のつどい

〒939-2516
富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

2／25　雪遊び

センターの裏にある雪原で、そり遊びや雪洞掘りなど自由に楽しみました。この日は地元の子どもたちにも遊びに来てもらい、一緒に楽しみました。クロスカントリースキーを履いて新雪の上を走り回ったり、新しいそりコースを作ったり、各々やりたいことに挑戦していました。「ここに壁つくろう！」とバケツで固めた雪を積み重ねたり、「見ててね！」とそりでのジャンプに挑戦したりしている人もいました。利賀の雪を遊びつくす時間になりました。

2／26　アルペンスキー

今年度、山村留学としては最後のアルペンスキー活動を「ダイナランド＆高須スノーパーク」で行いました。今年初めてスキーを始めた留学生たちも、スキー活動やスポーツ少年団での活動を通して、大抵のゲレンデを楽しく滑れるようになってきました。ゲレンデから見える大迫力の景色を見ながら、「スキーってこんなに楽しかったんだね」と話す留学生もいました。

テストがあり、当日ガチゴチに緊張して体が思うように動きませんでした。また、僕の苦手な斜面だったこともあり、思うように滑ることができませんでした。ただなんとか合格できたので来年は真面目に講習を受けて、次のレベルに挑戦したいと思います。　　（ 有生 ）

〈　日常の様子　〉

平村で開催された
スキー大会に出場！

「足大きくなったかな？」と
１年越しの足型取り。

修園のつどいに向けて
体育館の掃除とリハーサルを行いました。

たまには外でも
ゴロゴロ…
あたたかい日差しが
気持ちいい。

全員参加の
デザートお代わり
じゃんけん大会

3/11・12　雪中キャンプ

今年度のキャンプ活動の集大成として、雪中キャンプを行いました。

土曜日の日中はあちこちへ焚き付けを拾いに。テント泊を希望した人は、自分のキャンプサイトを確保し、テントを設営しました。「杉っ葉いっぱい拾ったよ」「ここで風を防ぐんだ」とやる気十分。テント泊の一同は、消灯後テントへ向かい、よく晴れていたので星空を観察しました。「きれいだったよ！」と翌日報告がありました。

日曜日はデイキャンプ。地元生も参加し、留学生と協力しながらキャンプに挑戦しました。これまでの経験を生かしながら、ソロキャンプに挑戦した人も。ラーメンと餅、焼きリンゴの調理を多くの人が順調に終え、雪上の昼食を笑顔で楽しんでいました。

最初に班が地元生と私の二人と聞いたときは私のせいで食べられなかったらどうしようと心配でしかたがなかったのですが、前日に火をつけるシミュレーションを何度も行い、練習をしたおかげで本番は一本のマッチでできました。前日は外でテント泊をしたのでつかれていましたが、それでも成功できたのは、地元の子が途中何回も薪を　集めてくれたからです。今回のことで、練習と協力は大事だなと改めて感じることができました。　　（　柚月　）

3／18　大掃除

１年間の感謝の気持ちを込めてセンターの大掃除をしました。始まる前のミーティングで、どのように分担するか、時間配分をどうするのか話し合い、「頑張るぞ、オー！」の掛け声で掃除が始まりました。「僕、前もここの分担だったので、やり方知ってるんですよ」と得意気に廊下の傷落としを進めたり、「お風呂場のカビが落ちないんですよ、もー！」と怒りながらも手を動かし続けたり、どんどんと掃除が進んでいきます。集中して取り組めたので、目標であった午前中にほとんどの作業を終えることができました。

3／19　誕生日会

３学期に誕生日を迎えた人を祝う誕生日会を行いました。当日までの準備・当日の進行は留学生が担当。午前中はスノーバレー利賀にて雪上運動会を実施しました。「疲れた～！」と声が上がるほど、斜面を登ったり、そりで滑ったり、雪の上を駆けまわったりして、雪上での遊びを楽しみました。午後からは夕食作り。４つの班に分かれて料理を作り、食べているときには「おいしいね！」という声が飛び交っていました。夜は、暗闇の中に隠されたお菓子を探すゲームと、みんなの２，３歳のときの写真を見て、どの写真が誰なのかを当てるゲームをして、楽しみました。

「仕組み」と「ルール」・自然体験活動

NPO 法人利賀山川まもる（商工会内）　齊藤嘉久

今年の冬は、予報が外れて、雪が少なく、過ごしやすい冬であったかな。私の子供の頃と比べると雪の量が随分と違うもんだと近年そう思う。

昔から、2 月を過ぎると雪がそんなに降らなくなり、三寒四温の時期となり、放射冷熱で雪が締まってくる。そうすると、かんじきを履かなくても、地面のように雪の上を歩くことができる。小学校の頃、学校の授業時間でも、天気が良いと、先生に今日は天気がいいよー。山の自然観察に行こうよー。とおねだりして、山を登り、急斜面を滑り降りたもの。どんよりとした、雪が降り続く冬の空から開放された気分の中、遮るもののない大自然の中で風を切る爽快感は嬉しかった、楽しかったもの。

その頃は、スキー場のようなゲレンデがあるわけではなく、どの場所のどの斜面、どのコース取りがよいかは、高学年のもんが知っていて、代々受け継がれていて、危ないところへ行く素振りがあるとガキ大将？から、叩かれた記憶がある。

大人がいなくても、ちゃんとした仕組みとルールがあって、年齢が小さくても、そのことが分かっていく。小さな社会が形成されていたような気がする。このことは、大人になって社会生活していく上での大切な仕組み、ルールの一部を知らず知らずのうちに身につけていたのではないかと思う。

規則や決まり事をまもって様々な人と暮らす。

友達と一緒になって楽しく過ごす場所と時間をつくる。

与えられた自然環境の中、自分でアレンジして、また、協力して遊びをつくる。

見よう見まねから始まって、自分が考えた遊び、やり方を周りが真似してくれると本当に嬉しく、また、次もやってみようという意欲が出て来たこともある。

小さなことかも知れないが、自然の中での遊び、行動、その積み重ねをしていくことで、様々な対応力が身についていたのではないかと思う。今の自分は対応力や適応力が少なくなっている？気がするが・・・。

自然体験活動をたくさん経験した子どもには、課題解決能力や豊かな人間性など「生きる力」が備わっていくのだそうである。いま、山村留学で利賀に住んで様々な活動をしている児童生徒を見て、その子どもたちが成長する様子を見て、本当にそんな気がする。この、利賀村だからできること、習得できることがあるのではないか、そのことを、また多くの皆様に知ってほしい。

くま爺のつぶやき・・・

３月、お別れの季節がやってきた。あと一週間で２期生は修園を迎える。２６日の朝、２期生１３人を送り出す。今年で帰る子は７人、来年度も残る子は６人である。朝食後、準備のできた親子から順にみんなで見送るが「さようなら」ではなく、「いってらっしゃい」の言葉で送り出す。

山村留学をした一年から数年の歳月は息の長い交流のきっかけづくりであり、終了してからが本番だと思うからである。高校生になっても大学生になっても休日や夏休みや冬休みを利用して村に帰ってきて欲しいし、社会人になっても家庭をもってもいつまでも関わりを持ち続けてほしいという願いが込められている。

山村留学の終わりは新たな交流の始まりである。留学終了後はこれまで以上に南砺市及び利賀村の方々との交流を深めて欲しい。今年で２０年目の島根県では修園生３人がお世話になった地域で暮らしている。

統括主幹　山本光則